www.ficec.jp

外国人と日本人とが、ともに豊かに生きる地域社会を！

# ハローフレンズ

ファイセック FICEC

発行 ふじみの国際交流センター
Fujimino International Cultural Exchange Center

2007年 4月号（隔月刊）第90号

優れた地域活動を行った団体として

## ふじみの国際交流センターが「地域づくり総務大臣表彰」を受賞

総務省では、毎年「地域づくり総務大臣表彰」として、優れた地域活動を行った自治体や団体、個人を表彰しているが、3月14日（水）にその「平成18年度表彰」が行われ、ふじみの国際交流センター（FICEC）が「国際化部門」の受賞団体として表彰を受けた。受賞理由は、「長年にわたり、幅広い年齢層のボランティアが活動し、積極的に行政機関との連携を図っている。多言語での情報提供、日本語支援など地道だが多様な取り組みで市民レベル、地域レベルでの活動を実践してきた」というものだ。

この表彰は、自治省時代の昭和58年（1983年）から行われているもの。毎年、都道府県などから推薦された候補団体等の中から、慶応大学の島田晴雄教授を座長とし、大学教授、評論家、実業家、アーティストら14人からなる審査委員会が受賞者を選ぶことになっている。発足当初は、優れた地域振興策を実施した自治体を選んで表彰していたが、対象が自治体だけでなくNPOなどの団体や個人にも広がり、さらに内容的にも「地域振興」「国際化」「情報化」などに細分化されて今日にいたっている。

今年は、地域振興部門に42団体、国際化部門11団体、情報化部門13団体、そして個人部門21人が推薦された中で、地域振興部門で15団体、国際化部門、情報化部門各6団体、個人部門で4人、合計31の団体・個人が表彰を受けた。

なお、国際化部門では、FICEC以外に島根県松江市の「八雲国際演劇祭実行委員会」（島根県において3年に1回の国際演劇祭を開催）、大阪府の「みのお外国人医療サポートネット」（外国籍市民への医療情報の提供、医療機関への同行、通訳活動を実施）などが受賞している。

（取材・文：内藤忍）

表彰に関する情報ホームページ：http://www.soumu.go.jp/s-news/2007/070216_8.html

外国籍の子どもたちへの日本語指導

# ボランティアが小中学校で行う「取り出し授業」初めて指導したメンバーの感想

## 母親とともに来日する外国籍の子が増加

近年、日本人が外国籍の人と結婚するいわゆる国際結婚が増加している。わが国の人口動態統計によると、1985年に1万2,000件だった国際結婚は、95年には2万8,000件、そして2005年には4万1,000件となっている。そして日本の国際結婚の大きな特徴は、妻が外国人というケースが圧倒的に多いことだ。05年に国際結婚した4万件あまりのうち、妻が外国人というケースが3万3,000件で、夫が外国人というケースは8,000件程度となっている。

こうした国際結婚の増加と同時進行で起きているのが、日本の小中学校に転入する外国籍児童生徒の増加。日本人と結婚する外国人女性には再婚というケースも多く、外国で生まれ育った子どもたちが、母親とともに来日して日本の学校で学ぶ事例が増加しているのだ。子どもたちは、ほとんどが日本語が理解できないまま入学するが、その一方で、日本の学校には、日本語ができない子どもたちへ指導システムはないに等しい。そこで、こうした子どもたちへの日本語指導は、多くの地域でボランティアの人たちが支えているのが現状となっている。

ふじみの国際交流センター（FICEC）でも、教育委員会からの委託を受けて、外国籍の子どもたちへの日本語指導を行っている。具体的にはふじみ野市の小中学校へ、「取り出し授業」という形でのボランティアの派遣だ。2006年度には、FICECから11人の子どもに対して2人の通訳と9人の日本語ボランティアが計782時間の指導を行った。

こうした日本語指導に当たる人たちは、教職経験をもっていたり、長年の指導経験をもっている人もいるが、まったく初めてという人もいる。そこで、子どもたちへの日本語指導は初めてという人たちが、どんなふうにこの仕事をするのか、2人の実例を取り上げて紹介したい。

## 通常の授業とは別に日本語の個別指導

川元里枝子さんは共働きのOLだが、前の会社を退職して空き時間ができたことから、次の会社に就職するまでの間、4カ月ほど日本語指導のボランティア。また、もう一人の石原怜実（さとみ）さんは、大学4年生でFICECのボランティア活動に参加したが、就職する今年4月までのやはり4カ月間、取り出し授業での指導にも参加した。

「取り出し授業」というのは聞き慣れない言葉だが、日本に来たばかりで日本語がまったくわからない子どもを通常の授業から切り離して（取り出して）、別室で日本語指導を行うこと。国語、社会、あるいは理科など、日本語

取り出し授業について話し合う（中央が川元さん）

がわからなければ授業自体が成り立たない科目の時間に合わせてボランティアが学校に行き、個別に指導を行う。

取り出し授業の目標は、日常会話と教科に移行するための日本語を身につけること。本来、毎日行うのが理想だが、ボランティアの都合が毎日はつかないことなどもあって、FICECでは1人の子に対して週3回～4回、数人が交替で担当して指導に当たっている。

川元さんは、取り出し授業を行うのは初めてだが、数年前に「ワーキングホリデー」の制度を利用して、ニュージーランドで小学校の日本語教師を務めたことがある。だから、「子どもたちに日本語を教えると聞いて、どのような仕事かはだいたいわかりました」と話す。最初は、ベテランのボランティアといっしょに学校に行き、数回やり方を見た後は、すぐに単独で教えるようになったとのことだ。学校には週1回行き、2人を別々に教えている。

石原さんは、やはりベテランのボランティアと組んで小学校に行き、教えている。その学校には2人の外国籍児童がいることから、そのうちの1人を担当している。

## 数人が協力して1人の子どもを指導

基本的に日本語で日本語を教える。だから、子どもの母国語は関係なく、教え方は同じ。イラストなどが入った教材を使って、まず単語から覚えていき、ひらがなでの文章の勉強などに進んでいく。1人に対して複数が指導するので、FICECでは指導状況の連絡ノートを作成している。そこには、その日使った教材内容や、子どもの様子に関するコメントが短い言葉で記されていて、皆で協力しながら子どもが早く日本になじめるよう指導が行われている。

「小学生だと、日本語を教えるといってもなかなか興味が続かない。すぐに、折り紙や絵本に興味がいってしまいます」と川元さん。そうした子どもたちに、物語を教材にして読んだりするなど、興味を続けていけるような工夫をしながら教えているとのこと。

取り出し授業について話し合う（左が石原さん）

また、石原さんは、「担当している子どもが人一倍がんばる子で、宿題なども毎回やってきます。私たちが来るのを、すごく楽しみにしているみたいです」と、教えること自体にやりがいを感じながら携わっているようだ。

## 週1時間でもぜひ参加して指導に加わってほしい

FICECがかかわりを持っているふじみ野市の小中学校には、今年度もすでに6人の外国籍児童生徒が在籍している。ふじみ野市の場合、今年度から取り出し授業については、教育委員会からの一般公募で指導する人が配置されることになっているため、FICECがそのうち何人を担当することになるかはまだ不明。しかし、こうしたボランティアに参加してくれる人は、多ければ多いほど子どもたちへの指導が充実することになる。週1時間でも都合がつけられるという人は、教育委員会での指導者募集に応募するなどして、ぜひ学校での指導に加わってほしいとFICECの日本語指導関係者は話している。（取材・写真：内藤忍、上原美樹）

## 地域の公民館などで日本語教室

# 身近な国際交流の場
# 近隣住民がボランティアで外国の人に指導

ふじみの国際交流センター（FICEC）は、もともと旧大井町（現ふじみ野市）の公民館で開催されていた日本語教室が母体となってできたものだ。こうした日本語教室は、1990年代に入って地域に居住する外国の人たちが増加してきたことから、外国人ができるだけ早く日本になじめるようにと、地域住民のボランティア活動として始まったもの。各地の公民館などを会場として、次第にその数が多くなってきたが、2005年に「埼玉日本語ネットワーク」が調べた日本語教室一覧では、埼玉県内だけで120カ所の日本語教室・サークルがあるとのことだ。
（ホームページ：http://www.sia1.jp/support/jmap/japanese.htm）

この日本語教室一覧によると、FICECが主な活動地域としているふじみ野市、富士見市、三芳町の2市1町でも9カ所の教室がある。そこで、それらの教室のいくつかを訪問して、どのような日本語指導が行われているのか、また日本人と外国人との交流がどのように行われているのかを取材した。

## ■富士見日本語サークル

10年前に鶴瀬西公民館（現在は鶴瀬西交流センター）で開催された国際交流講座がきっかけで設立されたサークル。その講座に近隣住民40人ほどが集まり、「何か自分たちでできることをしよう」と、地域在住の外国人のための日本語教室を始めた。いまでも、そのころのメンバーの半数が活動を継続している。

メンバーは設立時には日本語指導の経験などもないことから、他の日本語教室に見学に行ったり、日本語指導講座を受けたりするなどして経験

を積んでいったとのこと。

毎週、火、金、土の3回開催していて、毎回、日本人のメンバーが5～6人、そして外国人の学習者も5～6人程度が参加。基本的にマンツーマン方式で、すべて日本語で教える。テキストに沿って、読み書きを中心にしながら教えることになるが、時々笑いも交えながらていねいに指導しているとのことだ。

これまでの名簿では、受講者は国別では、中国、次にフィリピン、韓国、ブラジルなどが多い。交流センターでの教室以外にも、スポーツ会の開催、小中学校の国際理解授業への協力、さらには地域住民と外国籍市民とを結ぶ国際交流サロンなどの活動も行っていて、こうした多彩な活動が評価されて、2003年には埼玉県から「彩の国国際貢献賞」を受賞している。

## ■こども日本語学習クラブ

外国から来た子どもたちに、日本語を教えたり、学校の教科の勉強の支援をしたりするのが目的の教室。外国から地域の小中学校に入学した子どもたちには、ボランティアが学校に行って教え

**近隣市町で開催されている日本語教室**

| 名称 | 市町村 | 開催場所 | 開催日時 |
|---|---|---|---|
| 富士見日本語サークル | 富士見市 | 鶴瀬西交流センター | 火曜 10:00-12:00<br>金曜 13:30-15:30<br>土曜 14:00-16:00 |
| こども日本語学習クラブ | 富士見市 | みずほ台コミュニティセンター | 水曜 16:00-20:00 |
| 日本語教室 | ふじみ野市 | 上福岡西公民館 | 日曜 10:00-12:00<br>水曜 10:00-12:00 |
| 大井日本語クラス | ふじみ野市 | 大井中央公民館 | 木曜 19:30-21:30 |
| 親子日本語教室 | ふじみ野市 | 大井中央公民館 | 土曜 13:30-15:30 |
| 日本語教室 | ふじみ野市 | ふじみの国際交流センター | 木曜 10:00-12:00 |
| 国際子どもクラブ | ふじみ野市 | ふじみの国際交流センター | 土曜 10:00-12:00 |
| みよし日本語教室竹間沢教室 | 三芳町 | 竹間沢公民館 | 土曜 14:00-16:00 |
| みよし日本語教室藤久保教室 | 三芳町 | 藤久保公民館 | 水曜 10:00-12:00 |

るという形で日本語指導が行われているが、それだけでは学校の勉強に追いついていくのもたいへん。そこで、こうした教室を開いて、教科のことまで含めて指導や学習支援が行われている。日本語がまったく話せないような子どもから、中学3年生で高校受験を控えた子まで、さまざまな年齢層の子どもが通っている。

日本人メンバーは、主婦、学生などで毎回10人ぐらいが参加。指導を受ける子どもたちもだいたい同じくらいの人数で、マンツーマンで対応している。

子どもの年齢が小さいと集中力が続かないし、年齢が高くなってくると思春期で精神的に不安定になることもある。そこで、子どもたちの母語を話せる人に協力してもらい、精神的なケアをすることもあるとのこと。

メンバーは、「その子にとっては、教室にくる必要がなくなることが望ましいこと。そうして子どもが成長するとうれしい反面、さびしい思いもする」と話す。しかし、そうした子どもたちに町なかで「先生！」と声をかけられたり、久しぶりに教室を訪ねてきてくれたりすると無上にうれしいとも話す。

## ■上福岡西公民館日本語教室

日曜日と水曜日に開催されており、日本人メンバーはそれぞれ10人ほどで、合計20人くらい。学習者は少ないときで10人程度、多いときには20人以上になることもあり、小学生から大人まで幅広い年齢層の人が勉強しにきている。

1993年に公民館で行われた日本語指導ボランティア養成講座がきっかけで開催されはじめた。この講座は、毎年開催されていて、地域住民が外国の人たちに日本語を教える方法を学んだり、また日本語教室に参加するきっかけとなっている。

日本人メンバーに聞いてみると、楽しいことは「外国から来て、日本語を学びたいという人の役にたっていると実感できること」。初めはたどたどしい日本語だった学習者が、次第に上手に話

せるようになり、さらに日本語検定に合格したというような成果につながると、教えている方も大きな喜びを感じるとのことだ。そして、「先週指導した学習者が来ているのではないかと思うと、今週も行かなければという気持ちになる」とも話す。

教室以外にも、お花見、バーベキューパーティー、バス旅行なども楽しんでいて、「いろいろな国の人との出会いがあって、日本語を題材にいろんなことを話し合う」、それが楽しい日本語教室として継続している理由のようだ。

## ■大井日本語クラス

大井中央公民館主催の日本語教室。教える日本人の側のメンバーは、現在は5～6人ぐらい。それに対して学習者は、日によって異なるが2～5人程度とのこと。現在は、アジアの国々からの研修生の人たちが多い。近くの工場で働きながら、日本語を勉強しにきている。以前は、アメリカ、イギリス、オーストラリアなどからの人たちも多かったが、最近はアジアから来た人たちが受講生として多い。

専門の日本語学校というわけではないので、学習者の日本語レベルはさまざま。日常会話もままならない人から、かなりの高レベルの人までいる。そこで、教え方としてはマンツーマンで、その人に合った事柄を教える。相手に日本語で話をさせるコツは、相手の国のことを聞くことだという。食べ物、習慣などについて、積極的に話をしてくれるとのことだ。

いつも教えにきているメンバーに、「続けている理由」を聞いたところ、「日本語を勉強したいと学習者が待っている。その期待に応えたいと思うと、自然に足が向いてしまう」と話してくれた。

## ■日本語で日本語を教える

こうした教室では、退職した男性や主婦など、近隣の地域住民の中で、ウイークデーの昼間などに時間の都合がつけられる人が、手弁当で公民館などの会場に集まって、外国の人たちに日本語を教えている。基本的には「日本語で日本語を教える」という方式であるため、特に外国語ができる必要はなく、ひらがな、カタカナからはじめて、その人のレベルと学びたい事柄に応じて教えていくことになる。また、各地の公民館などでは、時折、日本語指導ボランティア養成講座といったものも開かれるので、そうした講座で教える技術のレベルアップをはかることもできる。

（取材・写真：石原怜実、上原美樹）

## たくさんのご寄付に御礼申し上げます

民設民営で、「在日外国人の自立の支援と共生の街づくり」を目指して、ふじみの国際交流センターが活動を始めて10年になりました。

その間（株）オムテック様、青峰社様、海老原夕美法律事務所様、東入間遊戯業防犯協力会様、国際ソロプチミスト様、カトリック上福岡教会様をはじめとして、大勢の皆様から多大なご寄付をいただきました。「頑張ってね。応援してますよ」と言って下さる声が聞こえてきます。背中をポンとたたいて下さっている笑顔が思い浮かんできます。私たちは、活動資金と一緒に大きなエネルギーもいただいています。何とお礼を言っていいかわかりません。

受益者負担が不可能な私たちのNPO活動は、皆様からいただいたご寄付によって成り立っています。これからも、皆で力を合わせ、まじめに地道に活動を続けてまいります。今後もご支援いただくよう、お願い申し上げます。本当にありがとうございました。

ふじみの国際交流センター（FICEC）理事長　石井ナナエ

## 桜花が満開

日本に来て20年が経ち、また春がやってきました。暮らしは日本人らしくなり、台湾にいた頃の自分と今の自分ではたいへん変わりました。何事にも対して自信を持って行動ができ、自分の意見を主張できるようになりました。何でこんな変わったのだろう。それは日本語教室に通い、一生懸命日本語を勉強して日常生活に困らないようになり、大勢の人と交流できるようになったからです。

いろんな人と出会い人生が豊かになりました。私は10年前にふじみの国際交流センターが設立されて以来、一緒に活動するようになりました。いまは中国語の先生をしたり、生活相談をしたり、学校の総合学習で台湾の文化や伝統を子供たちに伝えています。

ふじみの国際交流センターは、私にとって気を使わない暖かな家族みたいな存在となっています。他の外国の方も私と同じ気持ちになってくれればいいなと思っています。

ボランティア活動をしていると、うれしい気持ちになったり、自分自身を成長させてもらったりしたことがたくさんあります。その反面、ショックを受けたこともありました。これからも、くじけずにボランティアの一員としてセンターの活動に協力していきたいと思っています。

また外国の方もたくさん来てくれればありがたいと思っています。

（山﨑友理）

## 10周年を前にして

野元先生、石井さんのお誘いを受け、設立準備会に参加して早10年になると思うと何か感無量の思いがする。上福岡日本語教室を立ち上げたのが14年前。ずっと代表をしながら、日本語を習いに来た外国人や日本人ボランティアに積極的にセンターを紹介し、こちらにつなげている。

最初は上福岡の代表として8年、行政とのパイプ役を行い、現在はセンター内の管理や当番を務めている。最近のセンターを考えると、口先のみにて実際に動く人が居ないと思う。かつては、打ち合わせの際にも激しい言い争いがあり、出席者がびっくりして次回来なかったことがあったほど、すごい情熱を持って行動していた。だから今日のような広範囲の活動ができるようになったと思う。ところが昨今を見ると初期のような情熱的な行動が後退し、人の行動の様子を見ながらの状況が大分見られるようになってきているのが現状である。NPO本来の組織的運営からの選択を迫られているがいまだ結論を得ず、従来のままになって活動しているのが現状と思われる。企画力の不足、計画の作成実行力のなさ、若手実行力のある人のスタッフ移入を図る事が現在の課題だと思う。

（庄子一雄）

## センターに来た子どもたち

取り出しや子どもクラブで出会った忘れられない子どもたちがいたからこそ現在のわたしがあるのだと思っています。

最初の子は夏休みに中国から両親に会いに来たS君。おっとりしていたがB君とのカードで負けん気を発揮しました。結局お母さんと離れられず3月まで日本の学校に在籍し野球チームにも入り週末には河川敷などへの練習にも参加していました。

次も中国から来たKさん。お母さんと担任に頼まれ、ここから私の生活を変えてしまう取り出し授業に、はまり込んでしまったのです。努力家の4年生でした。

次は同じ学校のフイリピンから来たKさん。日本語ゼロから始めた初めての子どもです。

その後も取り出しや子どもクラブでたくさんの子たちに出会い、個性の違い、文化の違い等戸惑う事ばかりでしたが、少しずつ伸びていく子どもたちを見ているのは楽しいものです。これからも無理の無いところで一緒にやっていけたらいいなと思っています。

（戸塚咸子）

## センターの活動をご支援ください
## 会員・賛助会員・寄付のご案内

**●活動を担う会員……正会員**

正会員は、スタッフなどとして活動を担っていただく会員です。この会員は、総会などでの議決権をもちます。

**年会費：個人1口 3,000 円、団体1口 10,000 円**

**●センターを財政的に支える会員……賛助会員**

賛助会員は、センターを財政的に支えていただく会員です。総会等での議決権はありませんが、センターのイベントなどのご案内や、機関誌をお送りいたします。

**年会費：個人1口 3,000 円、団体1口 10,000 円**

**会員、賛助会員にはこの機関紙をお送りします**

**郵便振替口座：00110-0-369511**
**口座名：ふじみの国際交流センター**

## ご寄付をいただいた方々
### ご支援ありがとうございます

● 2005 年 4 月～（50 音順・敬称略）

青木和雄、阿澄康子、穴沢エミリン、荒田光男、石井ナナエ、伊藤智明、伊藤真弓、いも煮会、岩田ひさよ、岩田仁、上島直美、エスコラピアス修道士会、江原工業、海老原夕美、遠藤宏子、大関優、太田原裕、小沢ビクトリア、小原富明、（株）オムテック、カクセイジョ、葛西敦子、加藤久美子、カトリック教会、金子朝子、金子忠弘、神田順子、金文玉、栗島三千代、候、国際ソロプチミスト、後藤泰博、サークルクムスタカ、庄子一雄、申常午、菅山修二、鈴木譲二、鈴木美佐子、高橋郁子、武田和子、田中正江、チョン玄淑、常西カツエ、デュオ、寺村壁如、戸塚咸子、内藤忍、中嶋恵津子、仲田京子、中村禎作、萩原千代子、橋本弘美、長谷川正江、羽石貴裕、羽石電気、東入間地区遊技業組合、広木加代子、藤林泰、三芳アジア友の会、百瀬滉、矢野やす子、山崎友理、若林祥文

**●ご寄付は税金の控除や損金参入の対象となります**

ふじみの国際交流センターは、国税庁からの認定を受けた「認定 NPO 法人」ですので、ご寄付は、法人であれば損金参入が認められ、個人であれば寄付控除の対象となります。

## ふじみの国際交流センター（FICEC）のスクール、クラブ

### 日本語教室
「生活に役立つ日本語の習得」を目標に、日本人が日本語で教える教室。
●毎週木曜日
午前 10 時～ 12 時
受講料：無料

### 国際こどもクラブ
日本語が不自由なこどもたちに日本語や勉強を教えます。
●毎週土曜日
午前 10 時～ 12 時
受講料：無料

### パソコン教室
外国人、日本人にパソコンの技術指導をします。
●月２回土曜日開催
午後 1 時～ 3 時
受講料：日本人 1000 円
外国人 300 円

### 国際スポーツクラブ
上福岡の中学校体育館でバスケットボールを楽しみます。
●毎週日曜日
午後 7 時～ 9 時半
参加費：無料

### 中国語教室
学習者の中国語能力により、初級、中級上級に分かれて学習します。
●毎週金曜日
午前 10 時～ 12 時
冷暖房 1 回 200 ～ 300 円

### 韓国語教室
韓国語初級講座。韓国人の先生が、やさしく丁寧に教えてくれます。
●毎週月曜日
午前 10 時～ 12 時
受講料：１回 500 円

### ポルトガル語教室
ブラジルで通訳の仕事をしていた方が指導してくれています。
●毎週火曜日
午前 10 時～ 12 時
受講料：１回 1000 円

### 英語教室
初心者を対象としたスクールです。グループで楽しみながら勉強します。
●毎週水曜日
午後 7 時～
受講料：月 4 回 4000 円

## 編集後記
あなたも編集委員会に加わってください。大歓迎です。

■旅立ちの春です。学生生活に別れを告げます。今まで自由気ままに生きてきたので、社会に出て荒波にもまれてきます。タフな女性になれるように頑張ります！（石原）

■先日、ある会合に出席したところ、大学教授の方から外国籍児童への日本語教育についての話を聞く機会がありました。子どもは 0 歳児のうちから脳が形成されるので、日本語でも他の言語でも、積極的に語りかけることが、その子の生育のためにとても大事だという話が印象的でした。（上原）

■本誌の編集委員のかたわら、専門のバスケットボールで国際スポーツクラブを運営し、外国籍の人たちとバスケを楽しんでいます。最近は、中国から来た小学生、中学生の子どもたちも参加してくれています。最初は少し戸惑っていましたが、最近は特にシュートするのが楽しいようで、私も彼らとシュート競争をするの大きな楽しみになっています。（篠島）

■実は、最近ちょっと引きこもり気味なんです。というのは、パソコンがすごく面白くて、朝からいろんなことを試していたら、ますますのめりこんで、気づいたら夜寝る時間になっていたなどということもよくあります。仕事もあるし、ハローフレンズの編集もあるし、本当にここんところ、忙しい毎日を送っているのです。（内藤）


特定非営利活動法人ふじみの国際交流センター
〒356-0004 埼玉県ふじみ野市上福岡5-4-25
Tel：049-256-4290　Fax：049-256-4291
生活相談専用電話：049-269-6450



**編集スタッフ**
発行者：石井ナナエ（センター理事長）
編集委員（50音順）：阿澄康子、荒田光男、岩田仁、石原怜実、上島直美、上原美樹、王祺、王賛博、川田明香、黄耀潤、斉藤恵子、篠島幹昌、内藤忍、長谷川正江、山崎友理